

教育実習を活用した校内研修

ガイドブック

信 州 大 学

1. 全体指導のための資料

○ 教師に求められる資質と教職専門性

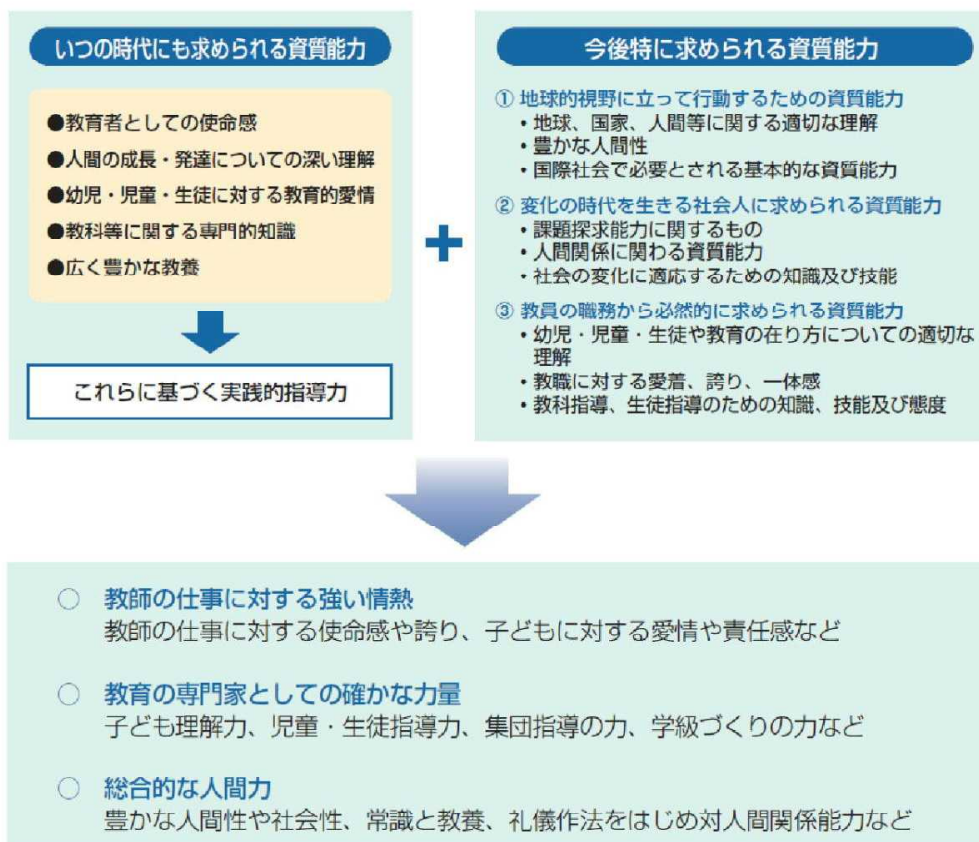
教師に求められる資質や能力には、社会情勢如何にかかわらず、いつの時代でも変わらないものがあります。得てして、社会的には、そのときどきの社会の状況により特に重視されるものみに目が向きがちですが、教育という営みは「百年の計」ともいわれるように、成果が現れてくるまでにある程度の時間がかかります。しかし、その成果は、社会を揺り動かす原動力になり、息の長い活動であると同時に、社会的重要度の高い活動です。

学校教育における教師の活動は、人間の心身の発達にかかわり、子どもたちの人格形成に大きな影響を及ぼすため、「教育は人なり」「教育は人との出会い」などといわれ、学校教育が充実するか否かは、教師の力量(資質や能力)にかかってきます。

どんなに質の高い教材を使っても、貴重な体験活動を企画しても、教師の目的意識がはっきりしなかったり、教師のかかわり方が悪ければ、十分な教育的な効果は得られません。

専門職としての教師には、教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解と生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、さらに、それらを基盤とした実践的指導力が求められています。

そのため、教員は常に力量の向上に努め、日々の教育実践や教師自身の研さんを図っています。



(文部科学省「魅力ある教師を求めて」より)

○ 教育実習の目的

教育実習では、正規の教員に準じて学校に勤務し、実際の学校現場で実践的な体験学習を通して、教師の資質能力や学習指導など、教員として必要な職務を体験的に学びます。

○教育の根源を問い求める教師の姿を学ぶ

学校現場で教員に求められる資質や能力の具体的な内容を体験的に理解し、それらの修得に関する自己研さんの学習課題を発見することが重要です。

○自信を持って教育に当たることのできる教師になるために

教科指導や生徒指導、あるいは道徳教育や特別活動の指導、さらには学級経営や学校経営の概要などを体験的に学習し、教員の職務内容の全般にわたって理解するよう努めることが大切です。

[具体的な課題]

- ア 教育計画の編成管理のあり方。
- イ 教科指導の計画・技術・整理等に関する実技の習得。
- ウ 道徳・特別活動等の性格、計画、指導技術、または学校行事等の参加のしかた。
- エ 生徒指導に関する知識とその処理のしかた等について。
- オ 児童生徒の健康教育や安全教育について。
- カ 教材、図書ならびに教育機器等に関する理解とその活用についての習熟。
- キ 学級の意義と学級経営のあり方について。

○子ども一人一人に心を寄せ、目を配る公平な教師をめざして

授業をはじめとする学校での様々な場面での生徒との関わりを通して、生徒の心理や行動についての理解を広め深めることが大切です。

○人間としての豊かさと温かさを持ち、労を惜しまない教師になるために

課外活動や各種の学校行事などの特別活動や学級経営や学校経営などへの観察実習や参加実習を通して、学校が有機的な教育組織体として機能していくために、教職員全員が一致協力して校務を分掌し、職務を遂行している実態を体験的に理解することが重要です。



○ 子ども理解の基本

子ども理解の意味と必要性

○一人一人の理解を

豊かな人間性を培う教育を行うためには、教師が子どもを十分に理解することが大切です。一人ひとりの特徴や傾向を十分に理解し、あらゆる教育活動の場で、個々の子どものどこを生かし伸ばさせるべきかを明らかにしながら指導助言を行うことが大切です。

○人間的な触れ合いを基盤に

子ども理解で重要なことは、子どもの自己形成の力に絶対の信頼を置き、教師と子どもとの人間的な触れ合いを基盤にすえ、個々の感情や価値観などを肯定的、受容的に受け入れ、共感的に理解していくことです。受容的で共感的な教師の態度に、子どもは心を開いて本心を語るようになります。

○長所を認める見方

教師の見方によって、子どものイメージは異なります。

問題行動をもつ子どもは、その問題傾向だけが目立ちますが、よく観察して理解を深めれば、その子どもなりの「よさ」や「長所」のあることに気づくものです。

子どもを理解するには

○子どもと同じ目の高さで

子ども理解は、ありのままの一切の姿を肯定的に理解しようと努める過程から生まれてきます。そこで大切なことは、教師が子どもと同じ目の高さで接し、お互いに心の響き合いをもつことです。

○実態をよく見る

子どもが外に現わす言動と、内側で働いているものとは、いつも一致しているとは限りません。しかし、内側で働いているものを理解するには、子どもの外に表れた活動の姿を事実としてありのままに見ていくことが大切です。

○集積した事実を結びつけて考察する

一人一人の子どもには、その子なりの個性があります。一つの事実から結論を導き出すのではなく、幅広い立場から継続して集積した事実を、ある時点で結びつけて考察してみることが必要です。

○学級集団での人間関係を見きわめる

学級は単なる集まりではなく、互いに影響しあいながら生活している集団です。一人の子どもが外に表れた活動の姿も、内側に働いているものも、その学級集団の級友との関係を抜きにして考えることはできません。

発達障害について

学級の中には、障害のある子どもがいることがあります。現在は、障害児の教育は特殊学級や特殊学校だけでなく、通常の学級においても子どもの特別な支援ニーズに基づいて行うようになっていきます。

発達障害の傾向がある子どもは、通常の学級に約6%ほどいるといわれています。通常の学級に多い発達障害は、主に学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、広汎性発達障害（高機能自閉症）で、どの発達障害もすべて中枢性の要因によるもので、環境的なものが原因になって発症することはありません。

しかし、特異的な障害の症状が現れ、学習上の困難や子ども同士の人間関係の問題となることもあるため、親の育て方が悪い、幼少期の経験が不足している、忍耐力がない等と、本人や親が責められてしまうことも多くあります。

このため、発達障害では、障害によって二次的に引き起こされる「自尊心を失う」ことがもっとも問題だとされています。このような自己肯定感の欠如が原因となって情緒的な問題が起こり、これによって生活や学習がさらに困難になるといった悪循環に陥ります。

○発達障害に対する支援（特別支援教育）

発達障害のある子どもへの支援は、その子どもにかかわるすべての教師が行いますが、発達障害は同じ障害でも一人一人症状が異なり、困難の度合いもその時々との関係で大きく変化します。本人の全体発達によって問題の症状が徐々に補われる側面もあるため、子どもの困難状況に対して行うという考え方が必要です。

特別支援教育コーディネーターの先生を中心に支援チームが編成され、「個別の教育支援計画」が作成されているので、教育実習では、まず指導教諭に対象の子どもについての具体的な支援方法を助言してもらい、観察実習や参加実習の場面を通して、その子どもの特徴をつかむようにしましょう。

実際にかかわるときの基本は、次のようなことです。

- ① 「できること」を見て、そのことをよくほめること
- ② 結果ではなく、本人なりに「頑張っている」経過を認めること
- ③ 学習の方法や流れを具体的にわかりやすく示すこと
- ④ 一度にまとめてたくさんのことを要求せず、一つずつ達成を確かめていくこと



発達障害のある子どもを対象に、授業やその他の活動でこのような配慮を考え実践することは、結果として発達障害のない子どもにとっても有効になります。

○ 実習時の生活について

○ 清楚な服装

教員としてふさわしい清楚な服装を心がけます。
運動や清掃活動にも対応できるように、運動着も用意します。



○ 電車、バス等による通勤

電車、バス等公共交通機関の利用が原則です。

○ 早めの出勤

余裕をもった出勤を心がけましょう。生徒の登校の様子を確認したり、当日の準備を行えるようにすることが重要です。

○ 出勤簿の押印

勤務した日には、毎日出勤簿への押印をします。

○ 授業参観、実習授業の準備

前日までに、授業参観や実習授業の準備をし、指導教諭の事前指導を終えておきます。

○ 「教育実習録」の記入、点検、指導

実習録には、当日内に記載すべき事項をすべて記載して、その日のうちに指導教諭から点検、指導を受けます。

○ 退勤時の挨拶

退勤する旨を残っている指導教諭や他の先生方に告げてから退勤するのが社会人としてのマナーです。

退勤時の施錠や、机上整理など整理整頓を確認することは、当然のことです。

◆ 欠勤・遅刻・早退 ◆

不慮の事故や病気などの場合には、まず電話等で指導教諭と連絡をとり、続いて学校長の判断を得ます。



○ 教員の日と役割

学校は、分刻みで動いています。自分自身のコンディションをそのリズムに乗せないと、なにかぎくしゃくしたものになってしまいます。

大学生気分で、時間ぎりぎりで行動していたら、きちんと開始したり、終了することはできません。

すべての活動が「時間通り始まり・時間通り終わる」には、節目の前後をゆとりを持って行動（準備）することが大切です。

〔学校の一日の例〕

- 8 : 0 0 … 登校指導
- 8 : 1 5 … 職員朝会・朝の活動スキルタイム
読書タイム・全校集会等
- 8 : 3 0 … 朝の会・健康観察
- 8 : 4 0 … 1校時・2校時
- 10 : 1 5 … 中休み ←
- 10 : 3 5 … 3校時・4校時 ←
- 12 : 1 0 … 給食
- 12 : 5 0 … 昼休み ←
- 13 : 3 5 … 清掃
- 13 : 5 5 … 5校時
- 14 : 4 5 … 6校時・クラブ・委員会活動
- 15 : 3 0 … 帰りの会・下校指導
職員会議・学年会・職員研修等

教師は休み時間
ではありません

教員には教科等の指導の他にも子どもたちが自己実現を図っていくために、適切な生徒指導や進路指導や学級集団を円滑まとめて運営するための、朝の会やホームルーム等さまざまな仕事があります。

子どもには見えないところでも、各教員間で意思統一を図ったり、問題についていっしょに考えるための会議等を行う必要があります。

学級経営・生徒指導

- 朝の会やホームルームの実施
- 面接等の方法で、子ども一人一人の様子も把握
- 問題行動への対処
- クラスの活動記録の作成
- 学級通信の作成

進路指導・キャリア教育

- 進路相談
- 進路情報の収集、整理
- 総合的な学習の時間や学校行事における
職場体験・インターンシップ等の実施



部活動

- 部活動の指導
- 試合等の引率

(文部科学省「魅力ある教師を求めて」より)

○ 教育実習の形態と内容

1. 観察実習

学級経営や教科指導にかかわる前段階として、さまざまな教育活動を参観しながら、日常行われている教育活動のさまざまな面を意欲的に観察することが大切です。

[観察の視点]

- ①実習校を取り巻く自然的・社会的環境との関係
- ②実習校の教育目標と日々の教育実践との関係
- ③学校運営の計画の具現化
- ④学級の教育目標と実際の学級運営の関係（教室環境の整備の仕方、学級の雰囲気等）
- ⑤教員の教育活動全般（日常業務・子どもたちとの関わり等）
- ⑥個人および集団としての生徒理解（子どもたち相互の人間関係等）
- ⑦授業の実際（授業記録の作成による授業構造の把握）

2. 参加実習

学級担任、教科指導の教諭の指導のもとで、教室環境を整備したり、朝と帰りの短学活・昼食時の給食指導・帰りの清掃指導等実際のさまざまな教育活動に参加したり手伝えることを通して、教師の仕事の内容を体験的に学びます。

また、担当教科ならびに他教科の授業を積極的に参観し、指導の目標・指導過程・子どもの学習活動の様子・学習指導・評価等について学ぶことも大切です。

3. 教壇実習（授業実習）

観察実習や参加実習の経験を活かして、実習生が自ら教壇に立って、実際の教科指導を行います。

指導教諭の指導助言を得ながら、綿密な教材研究を行い、発問・資料・教具等を準備し学習指導案を作成します。

実際に教壇に立ち、子どもたちに学習への関心を持たせながら、1時間の中で培う能力を明確にし、きちんと内容を理解させ、知識や経験を身に定着させる授業展開は、実習生にとって容易なことではありません。

しかし、一つ一つの授業は子どもたちにとってはかけがえのない時間であり、大切な学習の蓄積の機会です。

1分1秒たりとも無駄にせず大切にしてほしいと思います。授業終了後は、必ず指導教諭に指導を受けてください。



なお、自らも常に理論的・具体的に授業の反省をし、次の授業の教材研究・学習指導案の作成や指導過程に有効に生かすように工夫しましょう。

○ 実習中の TPO

生徒にとっては、実習生も「先生」であり、自分は今教師なんだという十分な自覚がないと、学生生活の甘さが教育実習に表れてしまい、周囲に迷惑をかけてしまうこととなります。そこで、気をつけなければならないのが、服装や言葉づかいなどの、いわゆる T・P・O (Time・Place・Occasion) です。先生という自覚を持って、容姿・服装・マナーの常識にも十分な配慮をしなければなりません。

特に、あいさつは日常生活の中での人間関係の潤滑油として重要な役割を果たしていますが、教育の場においてはよりいっそうその役割は大きいといえます。

子どもたちに礼儀をわきまえた基本的な生活習慣を身につけさせ、社会生活を円滑にすることを学ばせるという視点から、教師自らが礼儀を形にあらわした挨拶の励行をしなければなりません。

朝の「おはようございます」などのあいさつは、元気よく自分から生徒や教師に声をかけることも社会的常識です。廊下で先生や生徒とすれ違うとき、軽く会釈することも常識といえます。また、授業に臨むときは、「起立・礼」のあいさつで始まり、終わりも「起立・礼」で終わるのが普通です。

退校するときも、残っている先生方に対しては、「お先に失礼します」といったあいさつをはっきりと大きな声で行うことが大切です。

下校途中の生徒に対しての「さようなら」は、当然のことです。

言葉づかいについても、学生言葉ではなく、社会人としての言葉の使い方を意識しましょう。特に、語尾を明確にすることが大切です。生徒に対しては、指導者としての言葉づかい、実習校の先生方に対しては、指導していただいている立場をわきまえた言葉づかいの両刀づかいができるように努力しましょう。

また、話すときは、きちんと内容が伝わるように正確・明瞭にかつ適切な声量で話すように努め、模範となるような言葉づかいに心がけましょう。

[言葉づかいの要点]

ア、やさしく具体的に。「〇〇的」とか「理論的」といった抽象表現では生徒は理解できません。わかりやすくかみくだいた表現を心がけましょう。

イ、正確さ。不正確な表現や飛躍した比喩は誤解を生みます。

ウ、語尾ははっきりと。

エ、適度な声量。大きすぎれば話は続きません。また、小さすぎでは聞こえません。

オ、時には感情をこめてメリハリをつけましょう。

カ、品位あることばを心がけましょう。

○ 体罰の禁止について

学校教育法第11条は、校長や教員は、暴力行為や喫煙など、学生、生徒、児童に教育上望ましくない行動があった場合には、懲戒を加えることを認めています。しかし、その一方で、体罰を加えることは禁止しています（「体罰絶対禁止」の原則）。

＜学校教育法第11条＞

「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、学生、生徒及び児童に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。」

懲戒として、口頭による指導や叱責を行ったり、場合によっては、起立、罰当番等を命じることもできます。しかし、身体に対する侵害（殴る、ける）、肉体的苦痛を与えるような懲戒（長時間の端座、直立）などは体罰に該当するため、禁止されています。

体罰に該当するような行為は当然許されませんが、懲戒を行う場合は、子どもの性格や発達段階、行動心理の状況、非行の程度など諸般の事情を考慮し、教育効果を期待し得る限度において行使されるべきで、決して報復的行為等にわたることがないように留意する必要があります。

教育実習生の場合には、特に指導担当の教職員の指導助言の下で、子どもに対する指導を行うことが求められます。

○ 守秘義務について

教職員は、その職務を行う上で、子どもの成績や、生活状況、家庭の事情等を知ることになります。しかし、公務員は、地方公務員法第34条第1項によって、職務上知り得た秘密を漏らしてはならないとされており、子どもに関する個人的な秘密はもとより、学校において漏らしてはならないとされている情報については慎重な取り扱いが求められています。この守秘義務は、勤務時間中に求められるだけでなく、勤務時間以外においても、また、退職した後においても求められます。

＜地方公務員法第34条第1項＞

「職員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。」

個人情報保護条例によって、学校が保有している個人情報の収集、提供については原則的に本人の同意が必要とされています。

教育実習においても、実習生が自分の判断のみで子どもに関する個人情報を収集することはできませんし、収集した目的以外にその情報を使用することもできません。また、保有している個人情報も、本人の同意なしに外部に提供することは禁止されています。

○ 政治的・宗教的中立の態度について

教育基本法は、「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない。」(第14条第1項)とし、各種の政治制度や法令等に関する知識、政治的な理解力、批判力等のいわば政治的教養を教育上も重視すべきことを求めています。

しかし、その一方で、同条第2項では教職員が、特定の政党を支持したり、反対したりするような党派的な教育を行うことを禁じています。

授業等において政治的な事象を扱う場合は、異なる政治的な立場に配慮したり、公平な取り扱いをすることに留意する必要があります。

なお、教職員には、公務員としての立場から、教職員個人の政治的行為が制限されるとともに、公職選挙法によって選挙活動が制限されていることにも注意が必要になります。

＜教育基本法第14条第2項＞

「法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。」

教育基本法は、宗教に関する寛容の態度、宗教に関する一般的な教養、宗教の社会生活における地位など、宗教に関する教育が教育上も尊重されるべきであるとしており、宗教に関する知識やその意義について学校において適切に指導することを求めています(第15条第1項)。

しかし、その一方で、特定の宗教のための宗教教育や宗教活動を禁止しており、特定の宗派の教義を広めることを目的にした教育を行ったり、教会や寺社への参拝や礼拝を強制したりすることを禁止しています。

＜教育基本法第15条第2項＞

「国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。」



○ 授業参観のポイント

授業担当の先生と事前に授業参観のお願い等の連絡をとり、授業の内容や扱う教材等を確認し、教科書の該当箇所や内容、教材について下調べをします。

授業参観では、早めに教室に行き、授業前の子どものような様子や本時の指導に関係する教具など教室全体の雰囲気をつかんでおきます。授業はその場の雰囲気が大きく方向性が変わるもので、授業を担当する教師は、その場の雰囲気を察知しながら、次の展開を考え授業の流れを決めていくものです。授業参観でも、単に教師と子どものやりとりや板書を見ているだけでなく、学級の雰囲気との関係で授業の動きを見ることが大切です。

授業参観の視点はさまざまですが、以下のポイントを参考に授業記録を作成し、授業分析や担当の教師への質問に生かしましょう。

[見学のポイント]

① 全体的な流れをつかむ

授業のねらいとの関連で、全体的な流れを追いながら、導入・展開・まとめといった節目を、どのような発問で構成しているかを見取り記録する。

② 教師の指導と子どもの反応を観察する

授業において教師は、発問・説明・板書・作業指示など多様な意思決定を行っています。それら意思決定が、授業のねらいとの関係で、どのように構成され、それに対する子どもたちの反応がどうであったかを観察する。

③ 一人ひとりの子どもの特性をさぐる

あらかじめ子どもの座席表を用意し、子どもの授業中の活動(発言・ノート・表情等)をメモし、具体的な事実を通して特性をさぐる。

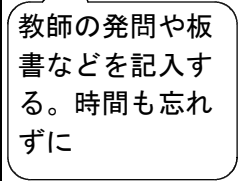
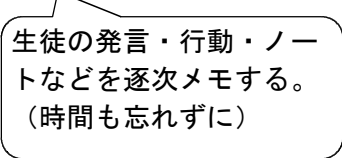
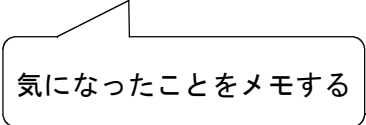
④ 気がついたこと・気になったことをメモする

参観中に気づいたこと、気になったことを授業記録の中にメモし、参観後自分の考えをまとめ、先生に質問をしてみましょう。

☆ 授業参観記録の例

○月▽日□曜日 ○校時 △年○組 □□科 教諭

本時のねらい…

教師の発問等	子どもの反応	備考
T.(10:00) ○○…… 	S.(10:05) □□…… 	

○ 教師の対応技術を学ぶ

授業は、当たり前のことですが、教師と子どもとの対話で成り立っています。

しかし、対話といっても、教師の発問に対する子どもたちの応対であったり、板書された内容について考え込む子どもたちの反応であったりと多種多様です。

1時間の中で、授業者である教師が、どの場面で・どのような反応や活動をしているのかを、詳細に記録して分析してみると、意外なことが授業を動かしていることに気づくこともあります。

つまり、子どもの発言・つぶやきや反応に対して、どのような言葉を発したか、そのときの表情(顔つき・声色)やジェスチャーやしぐさ、さらには立ち位置や間の取り方はどうだったのかを観察してみると、その教師の個性が見え、そのことが隠されたカリキュラムとして機能していることに気づかされることがあります。

授業の中での対話も、子どもに対する教師の対応ひとつで、子どもたちが深く考え込んだり、調べ出したりと行動が大きく変わることがあります。

つまり、教師の対応が、子どもたちの学習に対する意欲を生み出すきっかけを醸し出しているというわけです。

また、授業はある意味教師と子どもたちとの信頼関係の中で作り上げられていくもので、深まりのある授業には必ず和やかな中にも緊張があるものです。

それら教師が授業の中で何気なく行っているの子どもたちへの対応技術を、学ぶことは授業参観の大きな目的になります。

子どもの発言に対する教師の発言や対応は、

- ① 子どもの発言を強く後押しするもの
 - ② 子どもの発言を発展(深化や再考等)させるもの
 - ③ 子どもの発言を活用して授業の雰囲気や和らげるもの 等
- 様々な面を持ちます。

子どもの発言に対して、どのような対応をしたことで、子どもたちにどのような変化が起こったのかに注目して、記録をとることが大切です。

それら授業の中で行われる教師の対応は、その教師の固有の行動であると同時に、その場という特定性が強いものですから、そのまま真似ても実際の授業の中ではぎこちないものになってしまいますが、授業を作り上げていく重要な要素ですから、そこでの学びを自分の行動にどう生かしていくかを常に考えながら授業を参観することは大いに意義のあることです。



○ 授業のねらいを確認する

観察実習では、ただ漠然と授業参観をするのではなく、授業者の「ねらい」と実際の授業の中でどのように展開されているかを、教師や子どもたちの活動を通して観察することが重要です。多くの先生は、経験法則にもとづいたメモ程度の略案で授業に臨んでいるので、事前にどのような授業展開を計画しているのかを聞いておくことが大切です。

聞かれた先生にとっても、実習生に説明していく過程で、計画していた授業の問題点に気づいたり、別の発想に気づいて授業を再構築し直すきっかけを得る場にもなります。

また、紙面ではなかなか現れてこない授業者の教育観や授業論を、聞き取りを通して知ることができます。学習のねらいや1時間の学習の展開方法には、そういった授業者の教育観が無意識の内に反映されているものです。

「学習のねらい」と「授業者の教育観・方法論」をセットにして、授業を観察すると、授業者の発問・指示・板書の意図が見え、子どもたちの反応から、授業者の意図が子どもたちに伝わっているのかも見えてきます。

○ 板書技術を学ぶ

1時間の学習が終わったとき、黒板を見るとこの1時間何を学習したのかがわかるように計画的に板書は行わなければならないとよく言われます。

また、黒板を媒体にして子どもたちは発言したり、ノートとったり、考えたりしているので、黒板をいかに効果的に活用できるかが、授業が楽しくかつ深まりのあるものになるかを決めているといえます。

授業の進行状態にあわせて、どのように板書が行われていくのかを時系列で記録して、学習活動とどのような連動していたのかを参観後分析することは、学習指導案を作成する上で大変参考になります。

[観察の視点]

- ① 学習課題が、どのように位置づけられているか
- ② 子どもの発言を、どのように板書しているか
- ③ 子どもにどう板書させているか
- ④ 図や色チョークをどのように活用しているか
- ⑤ 字の大きさはどうか(見やすいか)
- ⑥ 板書する速さはどうか
- ⑦ 板書する際の教師の姿勢(位置)はどうなっているのか
- ⑧ どのタイミングで板書しているか
- ⑨ 資料はどの位置に掲示されているか
- ⑩ 短冊はどの場面で利用しているか(短冊は必要だったか) 等

○ 子どもたちのノートの観察

子どもが何を考え、何を学んだのか、また、どのように学習を進めたのかの記録が、子どもたちのノートです。授業参観というと、とかく教師の発問であったり、子どもの発言という表象的な現象に目が向きがちですが、子どもたちのノートがどのようになっているのかを観察することも大切です。板書計画と同様に、ノートがきちんととれる子どもを育てることも、学習活動を深める上で重要な内容です。

発達段階に応じて、ノートの作り方は異なってきますが、子ども自らが考えた内容をまとめさせるには、どの場面でどのような指導が必要かという視点で考えてみることも大切です。また、自分ならこのような指導をするということも、同時に考えながら授業を参観してみることも必要です。ノートを観察していくと、その子らしさも見え、実際に、自分が学習指導案を作成する際に、子どもたちの反応を予想する際の手かかりになります。

[ノートを見るポイント]

- ① 課題が書かれているか
- ② 板書の内容がまとめられているか
- ③ 自分の考えが書かれているか
- ④ 友達の発言などがメモされているか
- ⑤ 調べたことなどがまとめられているか



○ 一人の子どもの動きに着目して授業を見る

一人の子どもの着目して、授業の開始から終了まで、以下のような視点で追跡するという方法も、授業研究の手法の一つです。どの子どもを追跡するのかは、自分で決めてもよいですし、授業者の先生に相談して、抽出してもらってもよいでしょう。

[追跡の視点]

- ① 教師の問いかけに対する表情はどうか
- ② 友達が発言しているときに何をしているか
- ③ 何をメモしているのか
- ④ 何をつぶやいているのか
- ⑤ どんな反応をしているのか
- ⑥ どんなノートの作り方をしているのか
- ⑦ 発言内容は
- ⑧ 何を(何で)調べているのか 等

1時間という短い期間でも、子どもの学びの姿や変容が明確になり、授業の構成法や子ども理解という観点から大いに参考になります。

○ 先生の動きに着目する

授業の中での教師の動きに着目して、授業を参観し教師の授業の中での役割を考察します。子どもたちの実態をつかむための机間指導を、教師はどのように行っているのかを、よく観察してみましょう。

[机間指導を観察する視点]

- ① どのような場面で行っているか
- ② どのような助言をしているのか
- ③ どのように声がけをしているか
- ④ どのようにメモを取っているのか
- ⑤ 教師の表情はどうか
- ⑥ どのような道筋を描いているか

さらに、授業後師範授業をしてくださった先生に、どのような意図で机間指導を行ったのか、また、机間指導をする中で、どういった情報を得ることができた等を聞くことで、授業の構成法や子ども理解の方法を具体を通して学ぶことができます。

○ 教師の話術に着目する

授業の雰囲気を作り出す重要な要素が、教師の話術です。参観実習の場合、同じ教材・同じ内容の授業を複数回参観する機会があります。きっと、先生の話のしかたによって、授業の流れが違ってくることに気がつくはずですよ。

話の上手な先生の授業には、内容はともかく子どもたちは「わくわく」して臨んでいることが多いといえます。また、先生が話し上手だと、それに応ずる子どもたちの話し方も上手になることも多いといえます。逆に、いくら内容がすばらしくても、話が下手では、興味や意欲が半減してしまいます。

先生方の話術というものに着目して、授業を参観してみると、話し上手な先生は、直立不動でお話をしているということはありません。手を動かしたり、うなずいたり、顔の表情をいろいろと変えたりしてさまざまなパフォーマンスと組み合わせています。

[話術などを観察する視点]

- ① どのような語りかけを行っているか
- ② 声の強弱はどうか
- ③ どうやって引きつけているか
- ④ どこで、表情が変わったか
- ⑤ 笑顔のタイミングは
- ⑥ どんなパフォーマンスをしているか

2. 日々の授業実践を振り返るために

師範授業をきっかけに、日々の授業実践を振り返り、自分の課題を見つけ出すことが、OJT型の研修の第一歩です。

日々の業務の忙しさに追われてしまい、自分の強みと弱点をなかなか把握できずにいることが多いと思います。

そこで、日常の授業力チェックシートを活用して、先生自身の日々の授業を振り返ってみましょう。

結果をレーダーチャートに示してみると、先生自身の良いところと少しがんばってスキルアップを試みなければならない部分とが見えてくると思います。

レベル2を基本に設定していますので、レベル2に達していない領域がありましたら、その内容を意識して、スキルアップに挑戦してみましょう。

レベル2に達している領域は、安心するのではなく、レベル3に近づくように日々の研修に心がけてみましょう。

重要なことは、レベルの数値にとらわれることではなく、先生自身が次に何にチャレンジするかという、自分自身の課題を見つけ出すことです。

そして、校内の先生方みんなで、それぞれの課題解決のための知恵を出し合って、先生方が、無理なくやりがいを持って、日々の授業に取り組めるように、情報交換や研修を展開していくことが重要なのです。

さらに、細かな点については、指導基本項目チェックリストを活用して、振り返ってみましょう。指導基本項目すべてにチェックがつかなければいけないということではありません。とにかく、見落としをしまいがちな内容について、初心に振り返るという視点で、チェックをしてください。

第1部では、教育実習生が学ぶ視点について指導する際の要点を示しましたが、師範授業を活用した研修というのは、その視点で先生方自身が得意とする部分と、スキルアップを図らなければと意識している部分の両面から、師範授業にチャレンジして、実習生や同僚の先生方に、充実した授業にするためのヒントをもらおうというものだと考えてもらいたいと思います。

そのため、校内研修では、より多くの先生方の授業をお互いに参観しあい、その授業実践良い点と、参観した先生が「自分ならこの部分をこうしたい」という改善案といった情報を出し合い、蓄積していくことが大切です。

※日常の授業力チェックシートについては、「教師の力量とその形成」(授業力研究会・ベネッセ・)2010を参考にさせていただきました。

日常の授業力チェックシート（小学校）

		レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）
小学校の専門性と授業設計	1	小学校学習指導要領の自分が得意とする教科の概要(知識や指導法)を理解している。	小学校各教科の学習指導要領の概要(知識や指導法)を理解している。	小学校各教科の学習指導要領に基づき自ら教材開発や授業設計等を行なっている。
	2	幼児から児童への発達段階についておおまかに理解している。	幼児から児童への各発達段階について理解している。	幼児から児童への各発達段階について理解し、指導に生かしている。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを活用した学習資料作りを行なっている。	学習効果を上げるために、学習活動で、コンピュータ等の情報機器を活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行なっている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすいようにしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。

教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進度について話をしている。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（国語）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
国語科の専門性と授業設計	1	日本語学・日本近代文学・日本古典文学・漢文学・書写書道・国語教育のうち、1～2分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	日本語学・日本近代文学・日本古典文学・漢文学・書写書道・国語教育のうち、3分野以上についての専門的知識・技能を身につけている。	日本語学・日本近代文学・日本古典文学・漢文学・書写書道・国語教育のすべての分野についての専門的知識・技能を身につけている。
	2	授業は教科書を中心に展開することが多い。	国語科教育に関わる基礎的知識や技能を用いて、生徒の反応を想定しながら教材研究を行ない、授業を展開している。	授業設計に際し、生徒の実態や自分なりの日本語観・言語観に基づいて教材開発や作成を自ら行い、生徒の反応に対応しながら授業を展開している。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを活用した学習資料作り等を行なっている。	学習効果を上げるために、学習活動で、コンピュータ等の情報機器を活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行なっている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較に

				よっても明らかにしている。
教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終えるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（社会）

		レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）
社会科の専門性	1	地理分野・歴史分野・公民分野・社会科教育の内容のうち、1～2分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	地理分野・歴史分野・公民分野・社会科教育の内容のうち、3分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	地理分野・歴史分野・公民分野・社会科教育の内容のすべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	社会系教科の基礎知識・技能を用いて、学習者の反応を想定しながら教材研究等を行い、教科書を中心に授業を展開している。	授業展開は教科書を中心に行なうが、必要に応じて地域や生徒の実態に基づいた地域の素材等を生かした教材開発等を行い、授業を展開している。	授業設計では地域や生徒の実態に基づく教材開発等を行なうとともに、地域調査や博物館の利用等活動を取り入れた学習展開に心がけている。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを用いて、研究・実践資料を収集したり1教材や資料を作成している。	学習を深化させるために、コンピュータ等の情報機器を学習活動に活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行なっている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。

教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思い浮かべることができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（理科）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
理科の専門性と授業設計	1	物理学・物理実験・化学・化学実験・生物学・生物学実験・地学・地学実験・総合自然科学・理科教育の内容のうち、5分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	物理学・物理実験・化学・化学実験・生物学・生物学実験・地学・地学実験・総合自然科学・理科教育の内容のうち、7分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	物理学・物理実験・化学・化学実験・生物学・生物学実験・地学・地学実験・総合自然科学・理科教育の内容の、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	身近な自然や地球環境に興味関心を持っているが、授業展開は、主に教科書の配列に沿って行なっている。	授業展開は教科書を中心に行なうが、生徒や地域の実態に応じて、身近な自然や地球環境等の話題を授業に生かしている。	生徒や地域の実態に応じて、地球環境も含めた身近な素材(自然等)等を生かした教材開発・作成等をして授業を行なっている。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを用いて、研究・実践資料を収集したり1教材や資料を作成している。	学習を深化させるために、コンピュータ等の情報機器を学習活動に活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行なっている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較に

				よっても明らかにしている。
教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終えるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（数学）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
数学 科の 専門 性と 授業 設計	1	幾何学・解析学・応用数学・教育情報学・数学教育の内容のうち、3分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	幾何学・解析学・応用数学・教育情報学・数学教育の内容のうち、4分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	幾何学・解析学・応用数学・教育情報学・数学教育の内容のうち、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	身近な事柄や新聞・テレビ等の内容などで扱われている数学的な事柄に関心を持っている。	身近な事柄や新聞・テレビ等の内容などで扱われている数学的な事柄に関心を持ち、授業に活かすこともある。	授業設計にあたり、身近な事柄や新聞・テレビ等の内容等から、数学の題材を発見し、生徒の実態に合わせて教材開発をしている。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを用いて、研究・実践資料を収集したり1教材や資料を作成している。	学習効果を上げるために、学習活動で、コンピュータ等の情報機器を活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行っている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導 技術・ 方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子ども への 対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習 集団 作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。

教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思い浮かべることができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（英語）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
英語科の専門性と授業設計	1	英米文学・英語史・英語学・英語科教育の内容のうち、1～2分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	英米文学・英語史・英語学・英語科教育の内容のうち、3分野についての専門的知識・技能を身につけている。	英米文学・英語史・英語学・英語科教育の内容のすべての分野についての専門的知識・技能を身につけている。
	2	教科書を中心に教材等を活用して授業を展開している。	生徒の反応を想定しながら学習の手引きの作成や教材開発を行い、授業を展開している。	英語科教育に関わる基礎的知識や技能と子どもたちの実態を踏まえて教材研究を行い、生徒の反応に対応しながら授業を展開している。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータ等を用いて、適切な英語表現を検索したり、研究資料を作成している。	学習効果の上げるために、コンピュータ等情報機器を学習活動に活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行っている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。

教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（音楽）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
音楽科の専門性と授業設計	1	ソルフェージュ・声楽・合唱・伴奏法・和楽器・指揮法・作曲・編曲・音楽史・音楽学・音楽科教育の内容のうち、8分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	ソルフェージュ・声楽・合唱・伴奏法・和楽器・指揮法・作曲・編曲・音楽史・音楽学・音楽科教育の内容のうち、9分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	ソルフェージュ・声楽・合唱・伴奏法・和楽器・指揮法・作曲・編曲・音楽史・音楽学・音楽科教育の内容のうち、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	児童・生徒の音楽表現を評価・指導することができる。	児童・生徒の実態に基づいて授業を設計し、児童生徒の音楽表現を評価・指導している。	児童・生徒の実態に基づいて教材等自ら開発して授業設計を行い、児童生徒の音楽表現を評価・指導している。
	3	コンピュータを利用することができる。	コンピュータを学習に利用することができる。	コンピュータを利用することによって、適切な音楽表現をすることができる。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行っている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較に

				よっても明らかにしている。
教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終えるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（美術）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
美術科の専門性と授業設計	1	絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史・美術理論・美術科教育の内容のうち、5分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史・美術理論・美術科教育の内容のうち、6分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史・美術理論・美術科教育の内容の、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	美術諸領域の基礎的な造形力を身につけている。	美術諸領域の基礎的な課題や問題を解決するために、基礎的な造形力を生かして授業を展開している。	美術諸領域の基礎的な課題や問題を解決するための題材開発や、提示作品・教具づくりをして授業を展開している。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	一般的な文章や資料の作成に加え、コンピュータを活用した制作ができる。	学習にコンピュータを活用した制作を取り入れている。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行っている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。

教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終えるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教してもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（保健・体育）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
保健体育科の専門性と授業設計	1	体育原理・体育社会学・体育心理・運動学・生理学・体育経営管理学・衛生学・公衆衛生学・学校保健・器械運動・陸上運動・水泳・スキー・野外活動・球技・武道・ダンス・保健体育科教育の内容のうち、10分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	体育原理・体育社会学・体育心理・運動学・生理学・体育経営管理学・衛生学・公衆衛生学・学校保健・器械運動・陸上運動・水泳・スキー・野外活動・球技・武道・ダンス・保健体育科教育の内容のうち、13分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	体育原理・体育社会学・体育心理・運動学・生理学・体育経営管理学・衛生学・公衆衛生学・学校保健・器械運動・陸上運動・水泳・スキー・野外活動・球技・武道・ダンス・保健体育科教育の内容の、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	保健体育の基礎知識技能を用いて、生徒の反応を想定しながら保健体育科の教材を分析し、授業を行なっている。	生徒や地域の実態に応じて、授業を設計すると同時に授業で用いる手引や教材を開発・作成している。	生徒や地域の実態に応じて、授業を設計すると同時に授業で用いる手引や教材を開発・作成し、個に応じた指導を行なっている。
	3	コンピュータを用いて、研究・実践資料を検索することができる。	コンピュータを用いて、研究・実践資料を検索したり、資料を作成したりすることができる。	コンピュータ等の情報機器を活用して、個に応じた効果的な学習活動に取り組んでいる。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行なっている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるよう工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれを

			整理している。	で指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。
教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終えるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進度について話をしている。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつかせることができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（技術）

	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
技術科の専門性と授業設計	1	情報・電気・機械・木材加工・金属加工・栽培・技術科教育の内容のうち、4分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	情報・電気・機械・木材加工・金属加工・栽培・技術科教育の内容のうち、6分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	情報・電気・機械・木材加工・金属加工・栽培・技術科教育の内容のうち、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	生徒の既習体験（ものづくり・情報分野の）を知っている。	生徒の既習体験に基づいて、教材分析を行うことができる。	生徒の実態に基づいて、授業を設計・教材開発を行い、授業実践している。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを用いて、研究・実践資料を収集したり1教材や資料を作成している。	学習効果を上げるために、学習活動で、コンピュータ等の情報機器を活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行っている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。
16	知識・理解の獲得を促す指導を	知識・理解のみでなく、その基	総合的な学力の要素間の関連性、	

		大切にしている。	盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
教育観	17	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教えてもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

日常の授業力チェックシート（家庭）

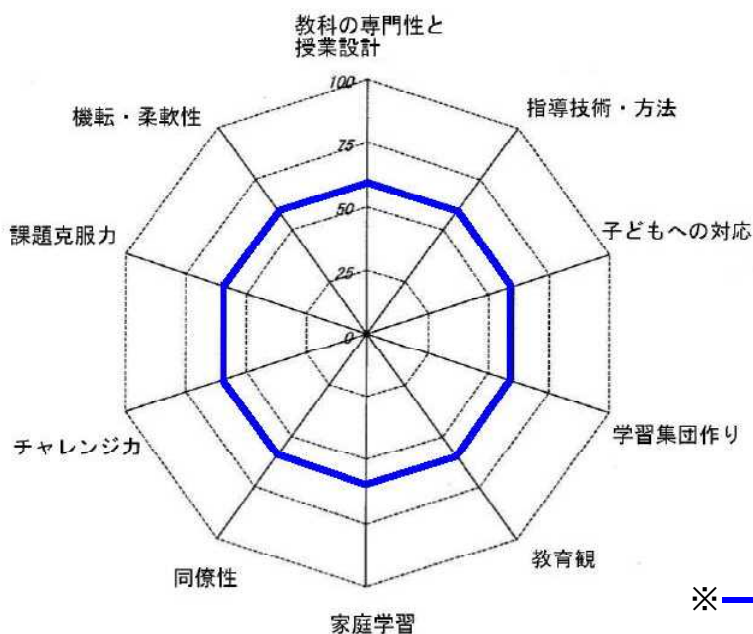
	レベル1（1点）	レベル2（3点）	レベル3（5点）	
家庭科の専門性と授業設計	1	被服学・食物学・住居学・保育学・家庭経営学・家庭科教育の内容のうち、4分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	被服学・食物学・住居学・保育学・家庭経営学・家庭科教育の内容のうち、5分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。	被服学・食物学・住居学・保育学・家庭経営学・家庭科教育の内容のうち、すべての分野についての専門的知識・技能を十分に身につけている。
	2	中高生の家庭生活に関する認識・技能を理解している。	生徒の実態や反応を想定しながら家庭科の授業設計・教材開発を行い、授業実践を行っている。	生徒の実態や地域社会実態(生活環境の改善)に基づいて、家庭科の授業設計・教材開発を行い授業実践を行っている。
	3	コンピュータで一般的な文章や資料の作成ができる。	コンピュータを用いて、研究・実践資料を収集したり教材や資料を作成している。	学習効果を上げるために、学習活動で、コンピュータ等の情報機器を活用している。
	4	学習内容について教科書や教科書の指導書で確認している。	学習指導要領の概要を理解した上で、教科書を中心に授業を行っている。	学習指導要領の概要（系統性）を理解し、学習指導要領の目標・内容や教科書の内容を深化・補充する、教材も開発している。
	5	教科書に準拠した資料や副読本などを用意している。	視聴覚資料や実物教材等も準備している。	指導目標を達成するために適切な資料やメディア学習環境を子どもの個人差を考慮して準備している。
	6	同僚に、使い勝手の良い教材・教具を教えてもらっている。	授業で用いるワークシートや資料を自作している。	子どものレポートや作品を、展示・掲示したりデジタル化したりして学習のモデルとして利用しやすくしている。
指導技術・方法	7	教科書の指導書に記された、標準的な展開を踏まえている。	あえて教科書の指導書の標準的な展開を避けて指導する場合がある。	教科指導においても、子どもと相談して、本時の展開を組み立てることがある。
	8	習得のための指導を行なっている。	単元の一部の時間において、活用のための指導も実施している。	習得・活用・探究の指導方法を単元の内容等に応じて使い分けている。
	9	業者が作成したテストの結果を分析している。	子どものノートやワークシートの記述を分析している。	チェックリスト等、自己点検・教師間の授業観察を通じて、授業評価を行っている。
子どもへの対応	10	学習指導の過程における、成績中位の子どもへの反応を予想している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を予測している。	学習指導の過程における子どもの多様な思考や反応を、つまずきのポイント等を含めて、十分に整理したうえで授業に臨んでいる。
	11	授業前に予定したとおりに授業を進めるようにしている。	予想していなかった発言や行動にも対応している。	以前指導した内容に戻ったり、後の指導内容を扱ったりして、予想していなかった子どもの発言や行動に柔軟に対応している。
	12	子どもにテストの結果をフィードバックしている。	子どものノートやワークシートに、学習の成果と課題についてコメントしている。	ポートフォリオ等を用いて、学習の成果と課題を縦断的に評価し、それを彼らに伝え、意識させている。
学習集団作り	13	ベル着等の基本的なルールを定めている。	話し合いの仕方や共同作業の仕方などに関するルールを定めている。	様々なルールを子どもに主体的に作成させ、それが遵守されているかどうかを点検・評価させている。
	14	一斉指導の中で、子どもが発言する機会を設けている。	グループワークなどを取り入れ、より多くの子どもが発言できるように工夫している。	教科指導においても、子どもたちが主体的に学習計画を策定する機会を設けている。
	15	クラス全体としての指導の成果や課題を明らかにしている。	クラス全体としての指導の成果や課題と個々の子どものそれを整理している。	クラス全体としての指導の成果や課題を、その他のクラスやこれまで指導してきたクラスとの比較によっても明らかにしている。

教育観	16	知識・理解の獲得を促す指導を大切にしている。	知識・理解のみでなく、その基盤を成す「学びの基礎力」、知識・技能を生活場面で活用・実践する力等を含めた総合的な学力の育成を目指している。	総合的な学力の要素間の関連性、例えば思考と表現の関連性についても意識して、指導している。
	17	授業中、予定した内容を時間内に終わるように努力している。	授業中、自身の判断により、子どもの学習状況等に応じて臨機応変に学習指導計画を修正している。	授業中、子どもの求めに応じて、臨機応変に学習指導計画を修正している。
	18	自らの授業を改善することを心がけている。	授業改善を子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて推進しようとしている。	子どもの学習到達状況や意識・行動の変容等に基づいて自分の授業を客観的に検証・評価・改善することを継続・発展させている。
家庭学習	19	ある程度の家庭学習課題を与えている。	授業内容等に応じて、家庭学習課題を変えている。	授業内容等に応じて、さらに子どもの個人差を踏まえて、家庭学習課題の多様化を図っている。
	20	家庭学習の実施状況を点検している。	子どもが予習復習してきた内容や疑問点等を授業で取り上げる等、家庭学習とリンクさせた授業を展開している。	家庭学習と授業における学習活動の関連について、学習計画が作成・提示されている。
	21	子どもが家庭学習に取り組んだ時間を把握している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の量と関連させて分析している。	単元テストや学力調査の結果等を家庭学習の質と関連させて分析している。
同僚性	22	同僚と授業の進捗について話している。	授業づくりに関するちょっとした悩みについて助言してくれる同僚がいる。	授業における失敗について親身になって相談にのってくれる同僚がいる。
	23	授業の問題点を指摘してくれる同僚がいる。	授業の良かった点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。	学年・教科を超えて、授業の良かった点や問題点について率直に指摘・助言してくれる同僚がいる。
	24	授業づくりを工夫する「見習いたい」教師がいる。	自身の授業を省察して、その改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。	たとえ失敗しても継続して授業改善に取り組んでいる「見習いたい」教師がいる。
チャレンジ力	25	自己の授業づくりの課題を明らかにしている。	授業改善のための具体的な計画を立てている。	授業改善のための計画を、その実行結果に基づいて策定し直している。
	26	新しい指導法や教材・教具に興味がある。	授業改善に向けて新しい指導法や教材・教具を取り入れている。	新しい指導法や教材・教具の特長と課題を整理して、その利用の日常化を図っている。
	27	自身の授業づくりについて考える機会がある。	自身の授業づくりの特長と課題を整理している。	自身の授業づくりの問題点について、その原因を納得がいくまで考えている。
課題克服力	28	授業の構成や指導方法の改善を図っている。	子どもの実態を踏まえた授業の構成や指導方法を具体的に思いつく。	授業の構成や指導方法の可能性と課題を、授業実践を重ねて継続的に検討している。
	29	授業づくりのアイデアを教してもらっている。	授業づくりに関する新しいアイデアを色々と思いつくことができる。	授業づくりに関する新しいアイデアを実際の授業において試している。
	30	理想とする「良い授業」がある。	手本となるような「良い授業」が身近に存在している。	「良い授業」の具体例を複数有している。
機転・柔軟性	31	計画通りに授業が進行できない場合でも、なんとか授業を遂行している。	計画通りに授業が進行できない場合でも、冷静に、そのリカバリーに努めている。	計画通りに授業が進行できない場合でも、それがよい授業づくりの契機となると考え、むしろ、その状況を楽しんでいる。
	32	授業中、面白い話や笑いを取り入れようとしている。	子どもが互いの学びを認め合う・雰囲気を作っている。	様々な方法で子どもたちの学習意欲を喚起している。
	33	自らの授業の問題点を反省している。	自分の授業の良い点を把握している。	自らの授業の問題点や良い点の把握を継続的・発展的に考察している。

○日常の授業力の自己評価結果の整理

- (1) 自己評価結果をレベル1は1点、レベル2は3点、レベル3は5点として、下表のA欄に記入します。
- (2) 各領域の3項目合計（領域別得点）を計算して、B欄「小計」に記入します。
- (3) 「教科専門性と授業設計」…（小計+2）×3 として計算し、C欄「スコア」に記入します。
その他の項目…（小計+1）×6 として計算し、C欄「スコア」に記入します。
- (4) 「授業力」6領域の「スコア（C欄）」の平均、および「授業レジリエンス」4領域の「スコア（C欄）」の平均を算出し、D欄に記入します。
- (5) 10領域のスコア（C欄）の合計÷10で「総合得点」を算出し、E欄に記入します。

	授 業 力												授 業 レジリエンス (挫折や失敗を乗り越えるたくましさ)							
	教科専門性と授業設計		指導技術・方法		子どもへの対応		学習集団づくり		教育観		家庭学習		同僚性		チャレンジ力		課題克服		機転・柔軟性	
	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル	No	レベル
A	1		7		10		13		16		19		22		25		28		31	
	2		8		11		14		17		20		23		26		29		32	
	3		9		12		15		18		21		24		27		30		33	
	4																			
	5																			
	6																			
B	小計		小計		小計		小計		小計		小計		小計		小計		小計		小計	
C	スコア		スコア		スコア		スコア		スコア		スコア		スコア		スコア		スコア		スコア	
D	授業力平均：												授業レジリエンス平均：							
E	総合得点：																			



※—線がレベル2です。

指導基本項目チェックリスト

教材研究	単元の指導計画や前時までの実態に基づいて、本時のねらいを明確にしている。
	学力向上を図るため、教科の論理と児童生徒の実態とを関連づけて、児童生徒にとってやりがいのある内容を教材化している。
学習環境	教材に教師自身がやりがいやおもしろさを感じ、専門的な知識や技能を生かした実践を展開している。
	1時間の授業の中で定着させたい基礎・基本と、その評価方法を明確にしている。
教具	清潔でよく整理され、落ち着いて学習に取り組める環境づくりに心がけている。
	児童生徒の健康や安全が確保するため、常に十分な採光と適度な換気を行っている。
学習での規律	掲示物を工夫するなどして、学進への動機づけを図っている。
	授業に先立って点検を行い、正しく安全に使用できるか確認している。
学習形態	学習活動に必要な教材・教具がすぐに使用できるように準備している。
	情報機器の有効な活用を図っている。
話し方	授業開始時に、児童生徒の出欠状況や休養状況を確認している。
	学習用具が準備され、開始時刻とともに学習活動を始め、終了時刻とともに学習活動を終了している。
指示	子どもたち同士が、誰とでも、わけへだてなく協力して活動している。
	「級友の発言は、静かに聞く」「級友の失敗を笑ったりばかにしない」といった学びの約束事を決めている。
説明	わからないときは「わからない」できない時は「できない」と発言することができる雰囲気育てている。
	説明を聞く・話し合いをする・作業を行うなど、学習活動の方法や内容に応じた学習形態をとっている。
教師自身の活動	互いにコミュニケーションが十分とれ、一人ひとりの発言や活動が生かされるグループ活動のための指導を行っている。
	グループ活動では、追究内容・方法・考えなど、学習のねらいに応じてグループ分けを行っている。
学習課題	児童生徒の発達段階に応じた内容と、スピードで話している。
	表情豊かに、抑揚を効かせ、児童生徒の心を引き込むように話している。
学習課題	正しい日本語を用いて、丁寧に表親している。
	教室の隅々まで視線を送り、児童生徒の反応をくまなく把握して話している。
学習課題	話す内容を全員に徹底させるときは、一切の作業と私語を止め、児童生徒の視線を集中させて話している。
	短く、明確に、わかりやすく意図を伝えている。
学習課題	児童生徒が納得して、意欲的に取り組める指示内容になっている。
	途中で指示の追加や言い直しなど、児童生徒を混乱させる指示はしていない。
学習課題	一つの活動の流れが終わってから、次の指示を出している。
	授業のねらい達成の視点から、必要不可欠な内容に絞り込んで説明している。
学習課題	簡潔で、わかりやすく、児童生徒が納得できる内容にしている。
	清潔で指導にふさわしい身なりで、授業に臨んでいる。
学習課題	どの児童生徒に対しても公平に、かけがえない存在として心温かく接している。
	受容すべきところ、指示・説明すべきところ、ほめるべきところ、注意すべきところ、それぞれに適したメリハリのある態度で授業を行っている。
学習課題	生命の尊厳や人権尊重の精神に基づいた態度・言動で、授業を行っている。
	全体に指示・説明するときは前で、個別に支援するときは横で、任せて見守るときは後ろで、というように、指導の目的に応じた教師の位置取りをしている。
学習課題	児童生徒の個別またはグループの主体的活動場面において、課題把握状況の確認、つまずきの把握と支援、思考内容の把握、補充または発展的な課題の提示、受容と励ましなど、目的をもった教師の活動を、計画的に、またその場の状況に応じて実行している。
	机間指導では、事前またはその場の個別学習状況の把握に基づいて、一人ひとりに即した目的と内容で適切な指導・支援活動を行っている。
学習課題	授業のねらいに即した内容にしている。
	児童生徒の興味・関心や問題意識に沿った内容にしている。
学習課題	児童生徒の多様な思考や追究活動を促す内容にしている。
	児童生徒の興味・関心や問題意識の高まりに応じた、適時の提示を行っている。
学習課題	学習集団全体で取り組む課題が、板書等で常に確認できるようになっている。
	既存の知識や技能、経験を基に、子どもたちの工夫や努力によって解決が図れる適度な難度の内容になっている。
学習課題	一人ひとりの習熟の程度や問題意識などに応じた個別の課題を用意している。

発問	興味・関心を高める、問題意識を醸成する、新たな見方・考え方に気づかせる、考えを整理させるなど、意図の明確な発問をしている。
	児童生徒が、ゆとりをもってじっくり思考できるように、発問数を精選し、考える時間を保障している。
	何を答えればよいのか、何を考えればよいのか、児童生徒にわかりやすく伝わる内容を考え発問している。
指名	児童生徒の興味・関心や、思考の流れに沿った発問を行っている。
	多くの児童生徒の考えを等しく問う場合、特定の見方や立場に立った考えを問う場合など、目的に応じて適切な指名方法をとっている。
	活発に発言する児童生徒だけでなく、一人ひとりの学習状況の把握に基づいた意図的な指名を行っている。
	児童生徒を呼び捨てにするとなく、丁寧に指名している。
発言や話し方	児童生徒に不安感を与えることなく、安心して発言できるように配慮している。
	発言するときは、級友の方を見てはっきり聞こえる発音と音声で話すなど、話し方の基本を指導している。
	発言の多い児童生徒の意欲を大切にするとともに、発言の少ない児童生徒の考えを大切にしている。
	児童生徒の反応を肯定的に受け止め、励まし、安心感をもって発言できるように配慮している。
	児童生徒の発言について、必要に応じて補足説明をして明確にする、要約する、他の発言との関係を示す、内容について意義づけるなどして丁寧に扱い、表現力を育むと同時に、他の児童生徒に十分内容が把握できるようにしている。
学習活動	児童生徒の発言を整理・分類して類型化し、その位置づけがわかるようにし、児童生徒同士の話し合いを組織できるように配慮している。
	しっかり話しを聞く場面、積極的に自己表現する場面、仲間と協力して活動する場面など、学習活動にメリハリをつけている。
	さまざまな学び方を経験するように、学習活動を計画的に設定している。
	ノートのとめ方、発言の仕方、話し合いの仕方、資料整理の仕方など、学習の基礎技能を習得させる手だてを計画的に講じている。
	一人ひとりの児童生徒が課題を把握し、自己学習目標がもてるようにしている。
	一人ひとりの児童生徒が、課題解決に向けての予想を立てたり解決への見通しをもって学習を展開するようにしている。
	一人ひとりの児童生徒が、学習を振り返り、どのような努力や工夫がよかったか、どの点が未達成だったかなどについて評価する活動を取り入れている。
	授業の始めに、前時からの連続性を図る活動、本時の課題を把握する活動、内容についての関心を高める活動など、学習の動機づけとなる学習活動を取り入れている。
	授業の中で、子どもたち同士が話し合う・表現し合う・共同作業するなど、協力し合って高め合う活動を取り入れている。
	話し合い活動では、じっくりと自己の考えや疑問を明確にする学習活動を、取り入れている。
板書	グループ活動等では、一人ひとりの児童生徒が役割を理解し、自己存在感をもって取り組めるように配慮している。
	わかったことだけでなく、疑問点やつまづきを抵抗なく出し合い、お互いに教え合う活動ができるような雰囲気作りが心がけている。
	児童生徒の思考や活動の流れがわかり、1時間の授業の概要が容易に読み取れる板書になっている。
	発達段階に応じて、正しくわかりやすく表記している。
	学習課題（テーマ）を明記している。
評価	授業ごとに板書の意図やねらいをもち、板書計画を立案している。
	枠や色の使い分けなど、理解しやすくするための表現を工夫している。
	児童生徒の発言を類型化して、個々の発言の位置づけが把握できるようにしている。
	単元の評価計画を作成し、本時の評価基準や評価方法などを明確にしている。
	児童生徒に評価の観点を示し、自己学習目標をもちやすくしている。
	座席表等を用意して、児童生徒の学習状況を記録し活用している。
宿題	授業の中での評価を基に、個への働きかけを行ったり授業の流れを修正したりする等、指導と評価の一本化に努めている。
	児童生徒の努力や工夫、進歩に着目して個人内評価を行い、児童生徒の励みにつなげている。
	児童生徒のつまづきを把握し、個に即したケアを丁寧に行うと同時に、達成度の高い児童生徒には、より難度の高い課題を提示するなどして、学習を発展させている。
	授業の実施記録をつけ、授業評価を基に授業改善を図っている。
宿題	計画的に、必要な宿題を無理のない範囲で課している。
	宿題をやった成果が授業に生かされるように配慮している。
	児童生徒が取り組んだ宿題の内容に目を通し、評価している。

編著者 小山茂喜
(信州大学 全学教育機構 教職教育部)

発行者 信州大学学務課
長野県松本市旭 3 - 1 - 1
TEL 0 2 6 3 - 3 5 - 4 6 0 0

発行日 平成 2 3 年 3 月 3 1 日

